

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射線の影響は心配ありません

福島第一原子力発電所の事故につきましては、皆様方、大変ご心配されていることと存じます。菅総理が3月15日に発表した国民向けメッセージにおいて、福島第一原子力発電所から20～30キロメートルの範囲が屋内待避の区域とされ、茨城県に隣接する「いわき市」の一部もその区域に含まれました。

本県では、今回の事故を受け、放射線の量を測定する可搬型モニタリングポストを、3月13日以降、北茨城市などに設置して観測を行っており、その数値は、3月16日正午現在、最大15マイクロシーベルト(0.015ミリシーベルト)／時間程度となっております。この値は、通常時に比べますと約300倍となっておりますが、胸部レントゲン撮影時(0.05ミリシーベルト)の3分の1程度のレベルであり、健康には全く影響はありません。この0.015ミリシーベルトがどの程度のレベルなのかということにつきまして、身近な事例と比べてみますと、日本人が1年間に自然界から受ける放射線の量(1.48ミリシーベルト)の100分の1程度となっており、非常に小さいレベルであることがお分かりいただけると思います。なお、雨が降った場合には、一般的には観測される放射線の数値が上昇するとされておりますが、もともと県内で観測された値は最大でも0.015ミリシーベルト／時間程度でありますので、これが仮に倍になったとしても心配するレベルではありません。もちろん、雨に濡れないにこしたことはありませんが、万が一濡れてしまっても、極端に神経質になられる必要はないレベルであると考えております。

一方、3月15日には、福島第一原子力発電所の3号機と4号機の間で、400ミリシーベルト／時間の放射線が観測され、人体にも大変な影響を与えるレベルであると報道されたことから、多くの方々が不安を感じられたことと存じます。しかしながら、放射線の強さは距離の2乗に反比例するとされておりますので、福島第一原子力発電所から約80キロメートル離れた北茨城市では、その強さは極めてわずかなレベルとなり、人体への影響は考えられないとされております。

このように、今回の東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う、茨城県内での放射線の影響につきましては、現在までのところ、何らかの行動が必要とされるレベルのものではありませんので、冷静に行動していただきますようお願いを申し上げます。

无需担心东京电力福岛第一核电站事故所引发的放射线影响

福岛第一核电站事故让大家十分担忧。3月15日菅直人首相在向国民发布的信息中,将距离福岛第一核电站20至30公里的范围指定为“屋内待避”区域(呆在室内避开放射线),而邻接着我县的福岛县「いわき市」,也包括在“屋内待避”区域之内。

我县在这次事故发生后,从3月13日起,在北茨城市等地方设置了移动式核辐射泄漏自动观测仪,进行监测。截止3月16日正午,所监测到的辐射量的数值中,其最大的数值为15微希伏即0.015毫希伏/小时。该数值同我们在事故发生前的平常的数值相比,高达约300倍,但它只是胸部X光透视(0.05毫希伏)的三分之一左右,对人体健康完全没有危害。我们可以用身边的事例做参照,来说明0.015毫希伏到底是怎样的一个数字。首先,这个数值只是日本人1年中受到的来自自然界的辐射剂量(1.48毫希伏)的约百分之一,可知这是一个很微小的数值了吧。另外,一般说来,降雨天气时监测到的数值往往会有所上升,因为县内监测到的最大数值也只不过是0.015毫希伏/小时,假设降雨致使该值增倍,也是无需担忧的。当然,最好是不要被雨淋到,但万一淋到,请记住这个数值也不是一个令人过于紧张的数值。

3月15日,在福岛第一核电站的3号机组和4号机组之间,检测到的放射线数值为400毫希伏/小时,媒体报导说,这个数值对人体健康有巨大的危害,因而使广大民众感到非常的不安。其实,核辐射的强度与距离是成平方反比的,越远强度变得越弱,北茨城市离福岛第一核电站约80公里,因此辐射的强度是极其微弱的,对人体健康不会产生影响。

因此,根据目前的状况,东京电力公司福岛第一核电站事故所产生的核辐射对茨城县内的影响,并不需要采取任何行动去对应,请务必保持冷静。